

鹿角に移住しませんか？

国土交通白書と十和田高校生アンケートからターゲットを見付けよう

代表者 3A 豊下 茉耶
指導者 茂内 芳樹

はじめに

鹿角市の政策の1つである移住促進について研究することで、ふるさとの素晴らしさの発見をしたいと考えた。

I テーマ設定の理由

当初、各県や市町村で出す補助金の比較をしようとしていた。しかし、移住コンシェルジュ講話の中で移住の魅力は経済面と別にあると聞き、地方の魅力や、地方希望者の要望を調べることに変更した。

II 実施計画

- 1 オリエンテーション
- 2 移住コンシェルジュ出前講座
- 3 移住コンシェルジュへの質問作成
- 4 質問の回答
- 5 平成26年度国土交通白書の分析
- 6 //
- 7 //
- 8 //
- 9 生徒アンケート作成
- 10 アンケート集計
- 11 //
- 12 発表準備

III 調査・研究内容

平成27年度国土交通白書の中から現役高校生も考えていることを抜き出し、アンケート調査をした。

- Q1 鹿角市の魅力について5段階評価をお願いします。
- Q2 就職したい地域や、住む場所を決めるときに重視する条件は何ですか。
- Q3 もし将来、生活するとしたら、“利便性の良い都会暮らし”と“自然豊かな田舎暮らし”どちらを選びますか。
- Q4 高校卒業後、他県・他地域に進学や就職しますか。
- Q5 Q4で“はい”と答えた方に質問です。他県・他地域に移動したのち、いずれ鹿角市に戻ってきたいと思いませんか。
- Q6 Q5で“はい”と答えた人に質問です。Uターンする年代を考えていたら教えてください。

研究結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

A3	全国	都会	57.1%	田舎	42.9%
	十高	都会	50.5%	田舎	49.5%

【考察】全国的にも、十和田高校生も都会暮らしを望む者が多いなか、田舎暮らしを望む者も一定数いる。鹿角市の人口増加のためには、田舎暮らし希望者を呼んだり、逃がさなかったりすることが必要である。

A4	十高	他県・他地域に移動	76.1%
		鹿角市に残る	23.9%
A5	十高	鹿角市に戻る	33.0%
		戻らないと思う	18.9%
		未定	48.1%

【考察】“鹿角市に残る”23.9%と“他県・他地域に移動後、鹿角市に戻る”76.1%×33.0%=25.1%を合わせた49.0%が鹿角市に住みたいと考えている。

A 6	全国 (すぐにでも、5年以内の計)	
	20歳代	10.3%
	30歳代	10.0%
	40歳代	5.3%
	50歳代	11.8%
	60歳代	43.5%
	70歳代以降	59.6%
	十高 (Uターンする年代)	
	20歳代	22.7%
	30歳代	14.4%
	40歳代	7.2%
	50歳代	0.0%
	60歳代	2.1%
	未定	53.6%

【考察】全国では60歳代、70歳代以降が移住を現実的に考えている。逆に十和田高校生は20・30歳代でUターンしたいと考えている。

A 1	全国 (地域ストックの金銭価値)	
	1位	自然の豊かさ
	2位	広々とした居住環境
	3位	職住の近接性
	十高 (鹿角市の魅力)	
	1位	自然の豊かさ
	2位	伝統文化
	3位	居住環境

【考察】1位は全国、十和田高校生ともに同じく自然の豊かさである。十和田高校生の2位に伝統文化が挙げられ、毛馬内盆踊りや花輪ばやしに強い誇りを持っていることがわかった。また、全国3位が職住の近接性であることから、移住者の要望が現れている。

A 2	全国	1位	日用品の買い物
		2位	交通インフラの充実度
		3位	収入額
	十高	1位	日用品の買い物環境
		2位	交通インフラの充実度
		3位	収入額

【考察】全国・十和田高校生ともに上位3つは同じ内容になった。

まとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

- 1 鹿角市は自然文化に優れた地域である。居住地は商店街や繁華街を準備することによって、日常生活に不便なく生活できるのではないかと。さらに、鹿角市は弘前市や盛岡市、仙台市等へのアクセスもよく、休日の都会生活も容易であることもアピールになる。
- 2 年配の方は、収入がいくらか下がっても、自然豊かな生活に魅力を持っている人が移住を考えている。ワークライフバランスの実践例示すとよい。
- 3 若者は地方生活体験のある人が、地方定住に理解がある。観光や長期滞在、合宿などの田舎暮らし体験に力を入れることが、移住者を呼びかけにつなげる。

IV おわりに

今回は地方移住をテーマにしたが、地元就職も含めて、自身のキャリアプランを考えるきっかけになったことは良い経験であった。

国土交通省の資料を用いたため、まとめが居住や交通に寄ってしまった。厚生労働白書にも人口減少を考えている箇所があったので、今後の機会で調べたいと思った。

V 協力・文献

- ・移住コンシェルジュのみなさん
- ・平成26年度国土交通白書